

障害の各モデルとその関係性

	障害の医学モデル（個人モデル）	「障害の社会モデル」	障害の関係モデル
定式	障害者が障害を持っている	障害とは、社会が「障害者」と規定するひとたちに創った障壁と抑圧である（社会が障害をもっている）	障害は関係性の中で「「障害者」が障害をもっているもの」として現れる。あくまで関係性の問題である
'障害者'の日本語表記	障害者 障がい者 など	「障害者」	仮に「障害者」
「障害者」の英語表記	persons with disability	disabled people	仮に disabled people
理論の始まり	資本主義社会と共に始まった一般的通念	イギリス障害学の第一世代が提起	日本において1970年代に使っていたひともいた。わたしも改めて提言
WHOの障害規定	impairmentの論理そのもの	ICIDHから転換に失敗	ない。新しい障害規定として提出
ベーシックインカムとの関係	ベーシックインカム－基本所得保障は資本主義社会の論理の個人モデルと矛盾する	ベーシックインカムも検討すること	基本所得保障ではなく、基本生活保障を！
現行の障害関係法規での関係	実質、現法規の論理	「社会モデル」を取り入れているとしているが、実は原理的には取り入れられていない	現社会体制（資本主義社会）では受け入れられない
労働能力との関係	能力は個人がもっている	能力は社会的富としても考えなければならない	能力は関係性を抜きにして実体主義的にとらえるのは誤りである
「障害者」福祉の論理	恩恵としての福祉	権利としての福祉？	福祉概念自体の止揚
特許制度のとらえ方	特許は個人の発明など、知的所有権として尊重せねばならない	?特許は社会的富の問題としても考えなければならない	知的蓄積は社会的歴史的蓄積としてとらえ、特許制度は廃止すること
ヘーゲル弁証法	テーゼ	アンチ・テーゼ	ジーン・テーゼ
背景となる世界観	近代的個我の論理	実体主義から逃れ得ていない過渡の理論	関係の第一次性
社会体制との関係	資本主義的社会体制	過渡の社会理論	反資本主義社会（共産主義的社会?）